

2017年4月19日水曜日 新郷新聞
認知症の佐藤さんと絵画と写真展

「認知症であっても不幸だが不安ではない」と佐藤さん
感性を開くアート「佐藤雅彦@希望の世界」絵画と写真の写真展が2017年3月14日、3月15日
ピアの3階のギャラリーで開催され両日で250人が集めた。

また、中青木のカフェギャラリー「タカノ珈琲店」で2回入れ替え、4月の26日まで開催されてい
る。

2007年に写真と絵画習い始め、「個展をやるのが夢だった」と言う佐藤さん。「展示会を行った
目的は、認知症当事者とつながること」と。

現在はピアノも習っており、次の目標はピアノ発表会をすることだと言う。

佐藤さんは、認知症の当事者の手記、日本医学ジャーナリスト協会賞優秀賞の「認知症になった私
が伝えたいこと」の著者。

2016年5月には、「認知症の私からあなたへ20のメッセージ」共に大月書店より出版された。

2014年に設立された、認知症の全国組織「日本人認知症ワーキンググループ」共同代表、2016年
1月に地元川口で設立された、「認知症と共に歩む本人の会」代表でもある。

佐藤さんは、1954年岐阜県生まれ。大学卒業後、中学校の数学の教師を経て、コンピューター会社
にシステムエンジニアとして25年間勤務。2005年10月51歳の時、若年性アルツハイマー型認知症
と診断され翌年の2月退職。

ホームヘルプ、配食サービスなどを利用し、自宅マンションで10年間一人暮らしを続けたが、現在
はケアハウスに入所されている。部屋に居るときにはドイツ語の勉強をしていると話す。

認知症本人の体験を伝えるために、人との出会いとつながりを大切にしながら、認知症に関する
「講演活動」や「認知症と共に生きることの発信」を続けている。

「認知症になっても不便であるが不幸ではない」と語る佐藤さん。

認知症の人、認知症ではないかと不安を感じている人。診断を受け、この先どうしようと光が見
えない人。不便や不自由を増えてストレージをいっぱいの人。他人の手を借り、日々を送っている人
たちに、「機能を失ったのを嘆くのではなく、残された自分の能力を信じ、楽しみでハリのある暮ら
しを送ること。1人で頑張らず、仲間たちとつながってお互いの知恵を共有していきましょう。私の
使命は認知症になって、希望を失っている人に希望を届けることです」という佐藤さん。

